

人間性復活

第188号

人間性復活とは、物質偏重の現代文明の中にあつて、人間の精神生活を重んじて、その復権を図ることにはかならない。

人間性復活運動でやりたいこと

一般社団法人 人間性復活運動本部 常務理事 正田泰基

アメリカでは「Doomer」という単語が最近台頭している。この言葉は、「Doomsday」からきており、人口爆発や気候変動、資源の枯渇などにより、地球の終わりが来ることを信じている人、という意味から取られている。しかし、現在は、そこまでの意味ではなく、未来や世界に希望を失っており、恋人も作る気がなく、結婚にも興味がない、友達もいない若者のことを指す。このDoomer気質に、多くのアメリカ人が浸食さ

れており、外見上Doomerでない人も、Doomerが持っているメンタリティに共感したり、一部自分に当てはまっていると思う人は多いそうである。似たような言葉が中国にもある。「寝そべり族」という。「家を買わない、車を買わない、恋愛しない、結婚しない、子供を作らない、消費は低水準」の人々を指すそうだ。このような雰囲気はもちろん日本にもある。多くの若者が、「結婚して子供を持つ未来が描けない。一人でおと

なしく暮らしていくしかない」と考えている。ヨーロッパでも似たような話は聞くので、地球の多くの場所で、将来への閉塞感が増しているようだ。

もちろん、この原因は経済的な後退にもあるだろうが、根本的な原因は、「自分が生きている意味が分からない。この世界が存在している意味が分からない。しかし、すでに自分はここに存在してしまっているのです、とりあえず生きていくしかない」という風潮が蔓延していることにあるのではないか。このような気持では、社会の荒波の中で戦ったり、妊娠、育児をしたりすることは大変すぎる。だからDoomerのような人が増えてしまうのだ。ここ1〜2世紀の間に、人類全体の持っている

情熱がどんどん失われて来て、地球全体が冷めてきてしまっている印象を抱く。

なぜこうなってしまったのか。これは世界中で自然科学的な思考を勉強していることが大きいと思われる。自然科学的な思考法をどこまでたどって行っても、道徳に到達することはできない。また、自然科学的な思考法を拡げて行けばいくほど、自分自身が存在している意味を見失ってしまうのだ。人類はここ数百年、客観性と、自然の摂理と、自分の目指す最高の道徳、理想が見事に合致するような、そのような価値体系、世界観を必要としている。

人間性復活運動に携わる者として、その課題の達成の一助になりたいものである。 以上

会員の『声』 第12回

人間性という言葉を学んで

市川支所（千葉県）

山本陽平やまもと しょうへい

人間性という言葉の意味を調べますと、その人間の本性、性質と出てきます。そこから人間性が高い人というのがどういう人のことかなと考えてみますと、穏やかな人であるとか、周りとの協力し合える人であるとか、他者から見て好感を覚える人のことのように思います。

そういう意味では人間関係の構築が上手な人、特に感情の融和が伴った人間関係の構築が出来る人こそ人間性の高い人と言えるのかなと思います。

私はメーカー勤務の会社員なのですが、働いている身として良く耳にするのが営業と製造の仲の悪さに関してです。営業は自分達が売ってあげているから製造は物が造れるのだと言い、製造は自分達が造ってあげているから営業が売ることができると主張されています。そして最終的にはお互いがお互いのことを「何も分かっていない」と言うのですが、このよくある小競り合いの面白いところはどちらも真実であることだと考えます。

営業が客先からニーズを引き出し、仕様をまとめて設計に投げ、設計が条件を満たした物を図面にして、製造がその図面に基づいて造ることで会社がお金をもらえるのだからど

ちらも間違ったことを言っていないのですが、何故それが小競り合いのようなことになるのかというと、言う人間が逆だからなのだと思います。

営業は製造が物を造ってくれるから自分達は物が売れると言い、製造は営業が客先と折衝をして売って来てくれるから自分達は次の物を造ることが出来ると言った時に喧嘩になることはないのではないかなと思います。自分は頑張っていると言いたい人は沢山いるのだと思いますし、頑張られているのだと思います。ですが同じように頑張っている人がいるのも事実ではないかなと思います。

そういったことから着想を得て、先ずは自分の頑張りを評価してもらおうとするのではなく相手の努力に敬意を払うことができるようになったらもっと人間関係の構築が上手くいくようになるのかなと考え、最近頑張り始めたところですが。

相手との相性もあると思いますし、上手くいかないことも多々ありますが、人間の良い所は努力することができるとことだと思えますのであきらめずに取り組んでいけたらなと思っております。

以上

人間性復活運動本部

反省から学んだこと

世田谷支所（東京都）

鈴木良知すずき よしとも

数年前、私は、見知らぬご老人が買い物袋を持って、ゆっくりと坂道を登っているのを見かけました。しかし、風貌がどことなく変わったため、「変な人だったら嫌だな」と思い、声を掛けませんでした。帰宅してから後悔の念に襲われました。「持ちましようか」の一言が言えなかった後悔を、今でも忘れられません。

話は変わりますが、先日、郵便局のATMに行くとな隣のATMで困っている様子の外国人がいました。20歳代くらいの男性でした。私は英語を話せませんし、声を掛けるべきか迷いました。それでも放っておくことができ



ず、「大丈夫ですか。どうしましたか。」と声を掛けました。相手が日本語を話せることを期待しましたが、そのような思いもむなしく、その外国人男性は外国語で話し出しました。言葉の意味は分かりませんが、ATMの画面を見てくれ、というジェスチャーでした。ATMの画面を見ると、英語版の引き出し画面に「3,020」と金額が入力されていました。外国人男性は「YEN」（確定）ボタンを押して見せましたが、ATMは反応しませんでした。ATMが反応せず、お金を引き出せずに困っていることが分かりました。

私も代わって押してみましたが、やはりATMは反応しません。画面の横に設置されたテンキーボタンの「確定」ボタンを押しても反応しません。すると外国人男性は操作画面を一旦キャンセルし、私のために日本語版に戻してから再度「3,020」と金額を入力して見せました。しかし、相変わらず「円」（確定）ボタンを押してもATMは反応しません。お互いに顔を傾けてしまいました。

そのあと、しばらくATMの画面を見ながら原因を考えると、画面の下の方に「硬貨は取り扱いきません」という小さい文字を発見し、原因が判明しました。私は外

国人男性に原因を伝えるため、「Not coin!」「This machine can not use coins. So you should...over one thousand yen.」と自分でも間違った英語だとは思いつつも、兎に角単語を並べ、修正すべき金額の「20」を手で指し示しました。理解してもらえただようで、外国人男性は「4,000」と入力し直して無事にお金を引き出すことが出来ました。別れ際に、「Thanks!」と言われましたが、「どういたしまして」を意味する「You're welcome」が咄嗟に出てこず、「あ、はい、どうも」と言って手を振りました。冴えないエピソードとなってしまいました。後悔は残りませんでした。

少しの勇気を出すだけでも、誰かの助けとなり、社会が明るい方向に向かう小さな一歩になると思います。いつかまたあのご老人に会えたら、次こそは「持ちましようか」と声を掛けたいと思います。

以上



堺第1高齢者支援センターの役割

地域の高齢者の皆様が元気で暮らせるように生きがいづくり事業や介護予防に当たります



センター長 小森恵美子 副センター長 名城啓子

サンシルバー町田

介護老人保健施設

社会福祉法人 共助会



上記 QR コードで施設の動画が視聴できます。

●高齢者支援センターの仕事は多岐にわたります

—高齢者支援センターでは、どのような仕事をされていますか。
小森 地域におられる高齢者の皆様の生活上での困りごとの相談に応じたり、介護保険申請の手続き代行等があります。他には、地域の方がデイサービスを利用される時、また施設を利用される時のお手伝いから、高齢者の皆様が不利益にならないように、権利を守る役割も担っています。

また、町田市は高齢者が元気で過ごせるように、特に介護予防に力を注いでいますので、高齢者の皆様に「このようにしたほうがいいですよ」と呼びかける活動をして、周知していただける地域づくりも担わせていただいています。

名城 私は、高齢者全般の相談を受けていて、支援する介護サービスにつなげることをしています。また、障がいのある方には必要に応じて施設をご紹介するとか、仕事内容が一杯あります。—日々の仕事において、気遣っていることはありますか。

小森 このセンターには、フルタイムは難しいけれど、決まった時間で仕事をしたい、地域に貢献したいという方もいます。時間的に難しいところは、私たち職員がカバーし、仕事を続けていた

■施設見学、随時行っております。お気軽にお問い合わせください。

だいています。とはいっても、専門性が求められますので、誰でも良いというわけにはいかないのです。

名城 仕事自体は、それほど変わりませんが、全体的な決め事はセンター長にお願いし、私どもが補佐をして、出来るだけお手伝いをするようにしています。

●日々仕事をしていて喜びを感じる時のこと

—専門性が必要な仕事であって、ハードな一面もあるようですが、よかったなと思うのは、どのような時ですか。

名城 お電話のご相談、こちらの施設に直接来られてのご相談は、時間に関係なくお受けします。お昼の休み時間がずれることもありますが、来られた方から、「相談してよかった」と言われたりすると、この仕事をしていてよかったと思いますね。

小森 始めた頃は、当然ながら地域の皆さんには認知されていませんでした。日を重ねて地域を駆け巡るうちに、私たちの姿を見ると、地域の方が手を振ってくださるようになりました。その時は、ようやく理解していただけたのかなと思い、嬉しさが込み上げましたね。

何か困ったことがあれば、このセンターに相談に行きたいという

と、私たちが発信するのではなく、地域の皆様が私たちに代わって、そのように言ってくださることに、私たちの役割が伝わっていると思います。すごくやり甲斐を感じます。

名城 毎日のように、いろいろなお電話があります。地域の方が倒れているという連絡が入りますと、看護師と一緒に同行して対応し、必要であれば救急車を呼び、搬送することもあります。その時、その時で一番よいと判断したことを行います。

ご相談に来られた方から、「本当によかった」、「嬉しい」、「ありがとうございます」と言われた時は、この仕事をしていてよかったと思いますね。そのような体験があるから、この仕事を続けられているのだと思います。



当施設は、緑豊かな環境に恵まれ、四季小鳥のさえずりが聞こえ、療養には最適の環境にあります。スタッフ一同、きめ細かなケアをモットーに皆さまのご利用をお待ちしております。

〒194-0211
東京都町田市相原町 2373-1
TEL : 042-770-2551 FAX : 042-770-2531



人間性復活

2024年3月1日発行

第49巻第1号(通刊188号)

編集者 星 博信

発行所 一般社団法人 人間性復活運動本部

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 2-15-5-401

tel : 03-3460-9441 fax : 03-3460-9466

mail : info@ningensei.or.jp

https://www.ningensei.or.jp/

「人間性復活」は特許庁に商標登録されています。

登録番号：第4752840(平成26年7月29日再取得)